

「高津まるごと次世代育成プロジェクト」

～地域が育つための柱をめざして～

益田市 高津公民館

1 高津地区の概要

○教育施設

- 4 保育園（所）・小学校・中学校・高校・高等技術校

○芸能・文化

- 石見神楽（2 社中）
- ホーランエー（8 月）
- 柿本神社八朔祭（9 月）
- やぶさめ神事（9 月）
- 高津地区市民体育大会（11 月）
- 高津地区文化展（11 月）
- 柿本神社節分祭（2 月）

○地区データ（2020.1 月末現在）

- 人口：8,210 人
- 高齢化率：35.9%
- 自治会数：32 自治会

清流高津川や県立万葉公園など自然環境が豊かであり、かつ国道 9 号線と 191 号線に挟まれ、大型商業施設も多く交流人口の多い地区である。



映画「高津川」

ロケ地 飯田橋

2 事業の趣旨

3 年前の課題解決型公民館支援事業の中で、次世代育成に向けた活動や取組を継続支援し、更に主体的に活動する地域リーダーの育成を目指す。

高津公民館だけでは実現が難しい事業を異なる地域、機関でコラボしていき互いに強みやスキル、経験を持つ人達が協力してアイデアを出し合い、新たな可能性を作り出す。

- 次世代を担う高津っ子を育成し、高津の「ひと・もの・こと」に触れ、故郷を愛する心を醸成する。
- 異世代交流での経験を積み、様々な立場の人と協力して創り上げる時間を共有し、社会貢献への意欲向上をはかる。

3 具体的な取組内容

ジュニアかるた	年 9 回 月 1 回
コラボ先：放課後児童クラブ 年間 185 名の参加	
チャレンジキッズ	2 保育園 月 3 回
コラボ先：地域の若者 年間 350 名の参加	
ホーランエーに触れる	8 月 3 日(土)
コラボ先：ホーランエー保存会 中学生 3 名の参加	
川流れ	8 月 10 日(土)
コラボ先：豊田・西益田公民館 高津参加親子・ボランティア：47 名	
アオハル🚲ライド	11 月 10 日(日)
コラボ先：行政・高校・益田サイクリングサークル 高校生 26 名・大人 19 名の参加	
親子しめ縄	12 月 21 日(土)
コラボ先：地域の住民 5 組の親子 16 名	
みらい・ゆめキッズ	1 月 19 日(日)
コラボ先：スポーツ少年団 少年団 12 名・参加子ども 20 名	

アオハル🚲ライド



◆ジュニアかるた…高津児童クラブ

多くの子ども達に百人一首を体験させて古典に触れ、記憶力、聞く力、積極性を遊びの中から自然に学び豊かな心を育成する。

児童クラブの子ども達に持ちかけ月に1度の出前講座として開催。

◆チャレンジキッズ…3年目

「市の球技レベルをあげたい」と熱い想いを持つ若者が保育園児へ運動遊びを通してスポーツの楽しさを伝えて行く事業の3年目。公民館の手を離れてどのように地域へ関わって行くかを考えていく。

◆ホーランエーに触れる…ホーランエー保存会

高津で300年以上も前から行われている伝統文化である。

中学生の地域貢献活動と異世代交流に関わる活動を支援していき、故郷の伝統文化を知り、愛する心と誇りに思う心を育む。



ホーランエーに触れる

◆川流れ…豊田・西益田公民館

西益田地区の川流れのノウハウで高津地区の親子にも「川の楽しさ・豊かさ・怖さ」を体験してほしい。

去年は「参加」だった意識を今年は「参画」に変えて一緒に川流れの事業に関わって盛り上げていく。

◆アオハルライド…行政・明誠高校・益田サイクリングサークル

サイクリングは、風を感じ景色と食をたのしみ五感を刺激させ脳を活性化させるスポーツである。

高校生の思考力・判断力・表現力をつけ主体的に学び参画できる人材の育成。

◆親子しめ縄…地域住民

長年、公民館の講座で地域の知恵袋の城市貞人さん（93歳）に伝統文化の継承としてしめ縄作りを通して地域の大人を育ててきた。その大人が学びを活かし地域の親子のしめ縄づくりでの指導者となり、故郷の次世代への伝統継承を引き受けてもらい伝統文化の維持向上を図る。

◆みらい・ゆめキッズ…スポーツ少年団

地域貢献を真剣に考えるスポ少の若者指導者が小学6年生に「経験・発想・責任」感じ「お手本である」という意識を植え付ける。自分達で企画した事業を低学年に実行する。共に主体的に活動する地域リーダーとしてふるさと愛を醸成する。



みらい・ゆめキッズ

4 評価と成果

「コラボ」をキーワードとして、事業を推進することで多くのスキルとアイデアを取り入れることが出来た。中でも人的面、予算面、内容面等更なるパワーアップを図ることが出来た。また、コラボ事業を通して、培われた団体・機関・人との繋がりは今後の事業推進に大きな力となる。

5 今後の課題と見通し

年々減少する予算・限られた人力で事業を推進していくのは困難である。今後は団体・機関との一層のコラボが公民館事業推進に必要なようになってくると思われる。

(文責：主事 植田 三栄子)